

- 2) 南 留美、高濱宗一郎、安藤 仁、城崎真弓、長与由紀子、山本政弘:Western blot法にて長期間陰性が持続しているHIV-1陽性者の1例, 第21回日本エイズ学会, 平成19年11月28日, 広島
- 3) 辻 麻理子、城崎真弓、長与由紀子、南 留美、高濱宗一郎、安藤 仁、井上 緑、山本政弘:当院でのHIV感染症患者におけるメンタルヘルスについて, 第21回日本エイズ学会, 平成19年11月29日, 広島
- 4) 高濱宗一郎、山本政弘、南 留美、安藤 仁、城崎真弓、長与由紀子:当院におけるHAART導入患者での骨粗鬆症の評価, 第21回日本エイズ学会, 平成19年11月29日, 広島
- 5) 安藤 仁、山本政弘、南 留美、高濱宗一郎、城崎真由美、長与由紀子:腹部超音波検査による脂肪肝の有無と抗HIV療法に関する検討, 第21回日本エイズ学会, 平成19年11月29日, 広島
- 6) 南 留美、安藤 仁、高濱宗一郎、城崎真弓、長与由紀子、山本政弘:HAARTによる脂質代謝異常と高分子アディポネクチンの関連, 第21回日本エイズ学会, 平成19年11月29日, 広島

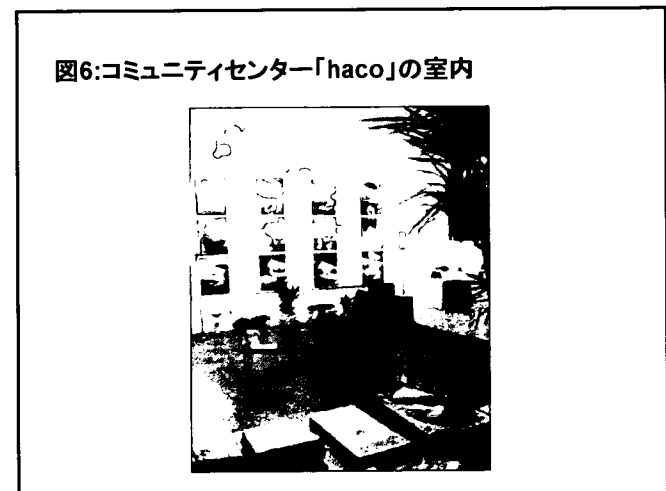
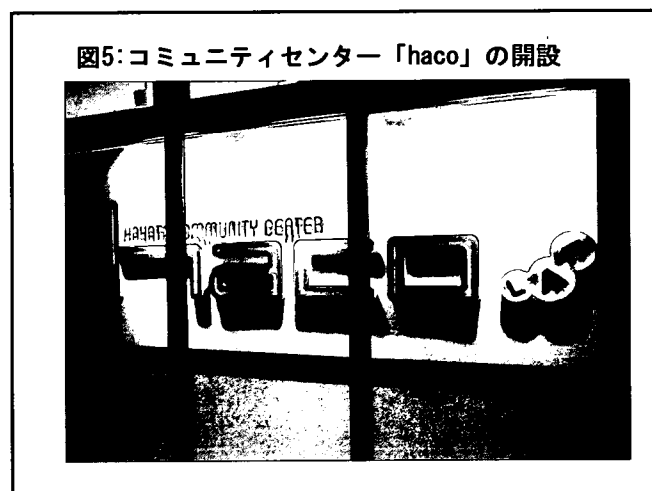
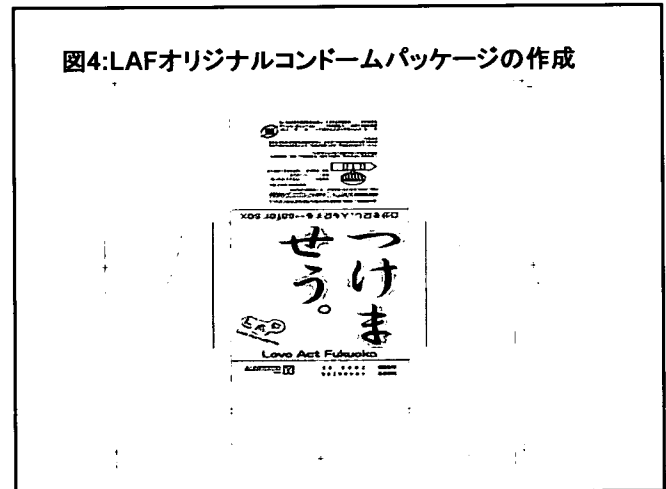
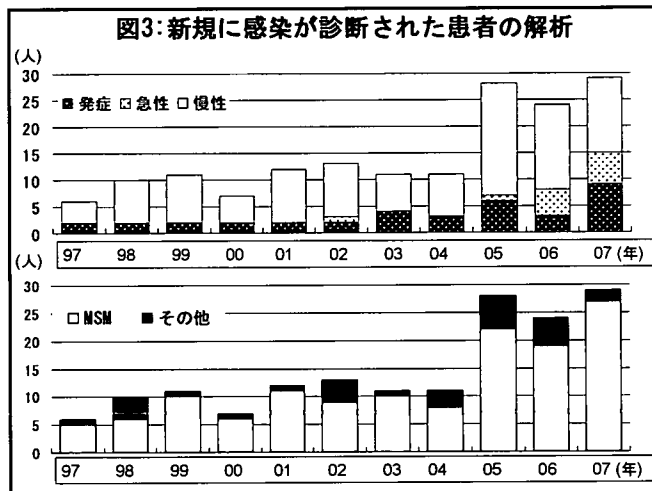
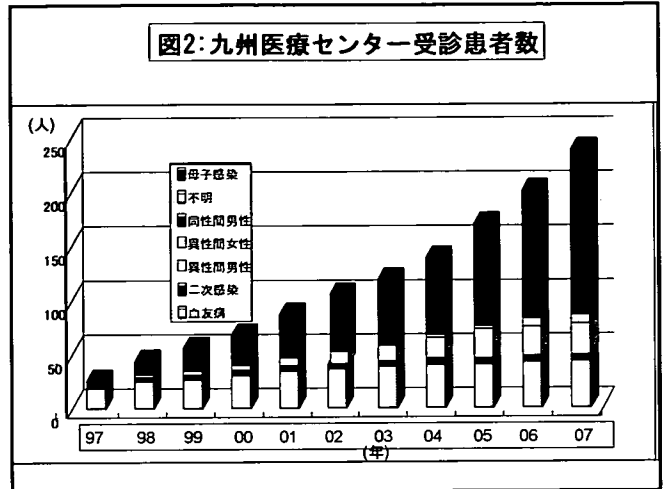
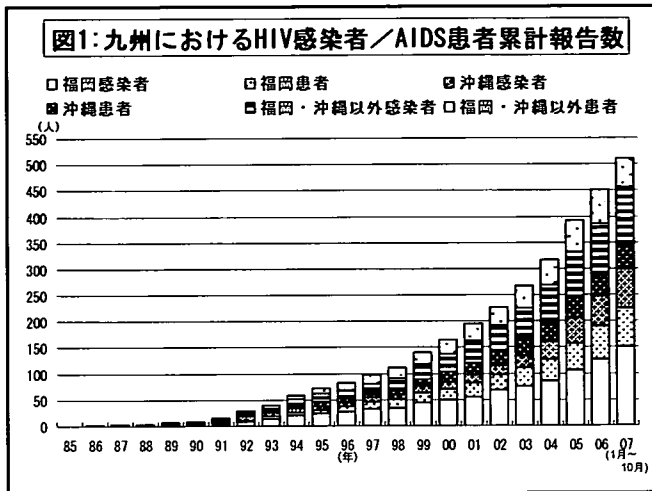


図7: LAFを中心としたコミュニティのイメージ

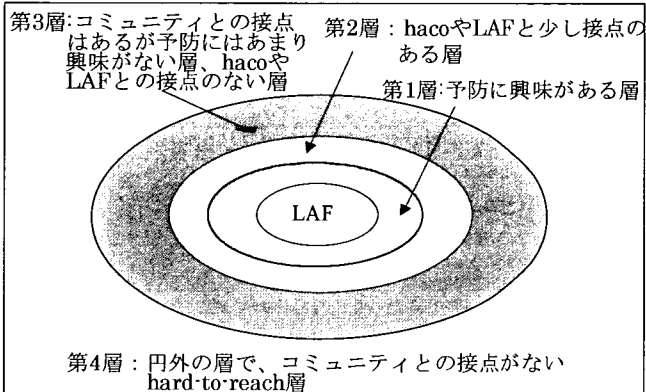


図8: コミュニティセンター「haco」での各種啓発イベント(1)



図9: コミュニティセンター「haco」での各種啓発イベント(2)



図10: 博多コミュニティセンターhacoへの時間帯別による来場者数

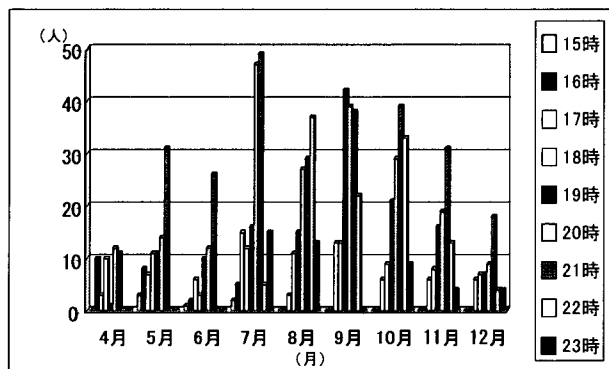


図11: イベント等参加者のアンケート結果(1) (年齢・居住地)

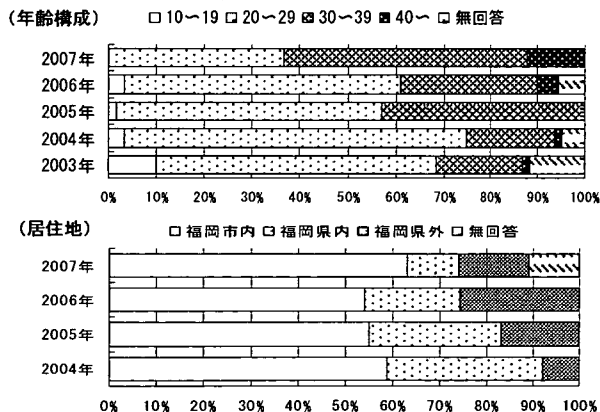


図12: イベント等参加者のアンケート結果(2) (性的指向及び男性とのセックス経験)

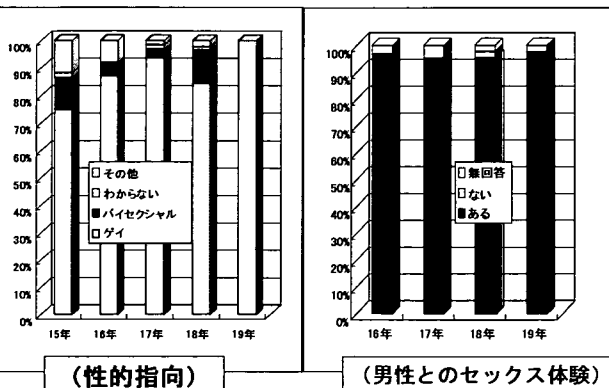


図13: イベント等参加者のアンケート結果 (3)
(男性とのアナルセックス経験)

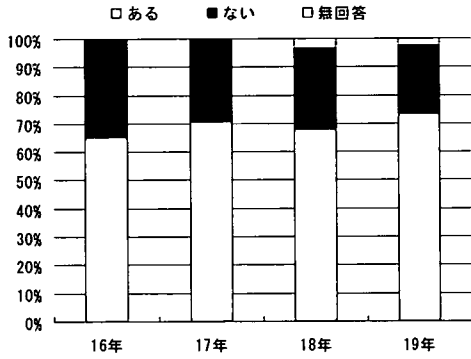


図14: イベント等参加者のアンケート結果 (4)
(コンドーム使用状況)

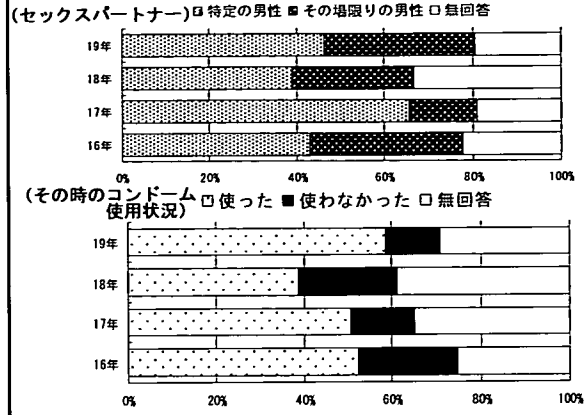


図15: イベント等参加者のアンケート結果 (5)
(挿入する側のコンドーム使用)

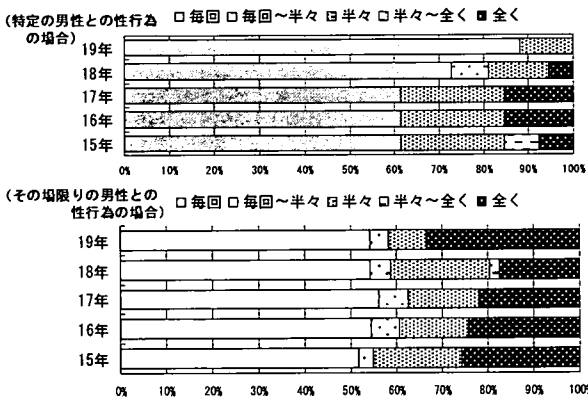


図16: イベント等参加者のアンケート結果 (6)
(挿入される側のコンドーム使用)

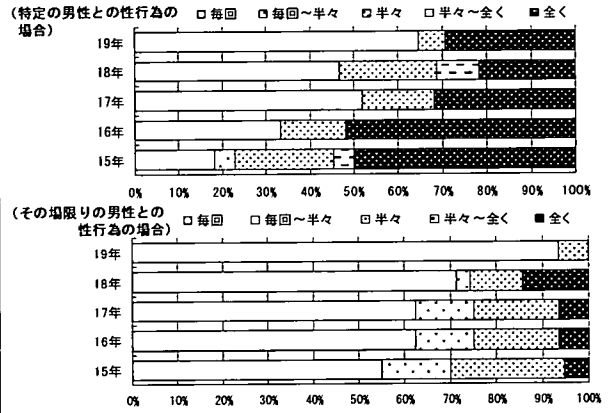


図17: イベント等参加者のアンケート結果 (7)
(性行為時に使用する物)

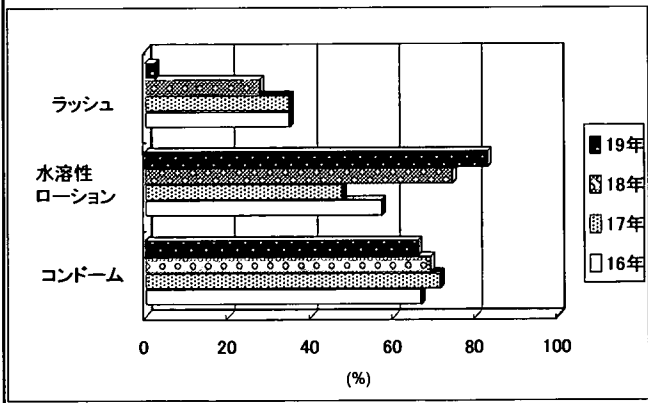


図18: イベント等参加者のアンケート結果 (8)
(過去半年間のコンドーム購入率)

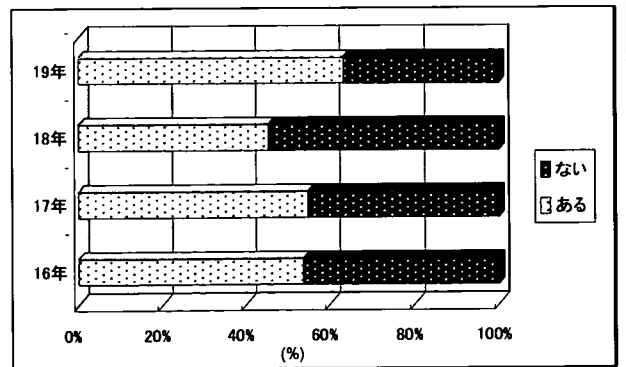


図19: イベント等参加者のアンケート結果 (9)
(過去半年間のHIV抗体検査率)

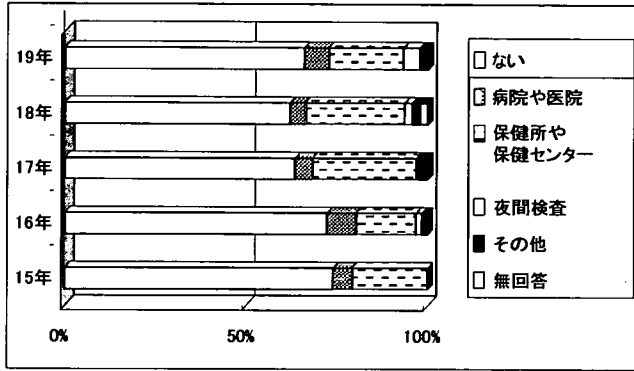
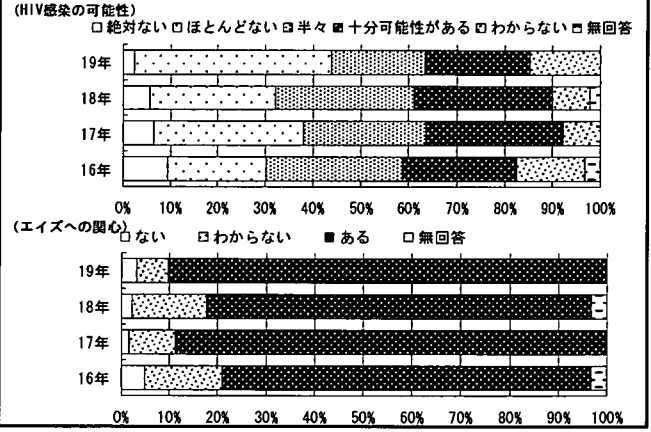


図20: イベント等参加者のアンケート結果 (10)
(HIV感染の可能性とエイズへの関心)



沖縄県の男性同性間感染による HIV 陽性者へのアンケート調査 —急増する地方 MSM 向け予防介入プログラム作成の視点から—

分担研究者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科感染症制御学講座 分子病態感染症学分野）

研究協力者：仲村秀太¹⁾、田里大輔¹⁾、日比谷健司¹⁾、原永修作¹⁾、比嘉 太¹⁾、藤田次郎¹⁾、
宮城京子²⁾、長谷川博史³⁾、宮川桂子⁴⁾、嘉数光一郎⁵⁾、仲程ひろみ⁶⁾、翁長悦子⁶⁾、
椎木創一⁷⁾、遠藤和郎⁷⁾、向井三穂子⁸⁾、松田奈月⁸⁾

1) 琉球大学大学院医学研究科感染症制御学講座 分子病態感染症学分野 2) 琉球大学医学部付属病院看護部 3) 日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス 4) 沖縄県中央保健所 5) 県立南部医療センター・こども医療センター 6) 県立南部医療センター・こども医療センター看護部 7) 沖縄県立中部病院 8) 沖縄県立中部病院看護部

研究要旨

沖縄県における男性同性間による HIV 陽性者急増の要因を検討するため、HIV 陽性者から得られた自記式質問紙調査をもとに下記の仮説を検討した。

仮説 1：ゲイタウンを利用しない MSM の多くは、HIV 感染に対して hard-to-reach population である。

仮説 2：HIV 感染の多くはゲイタウンを利用しているゲイコミュニティの中で起こっている。

仮説 3：仮説 1 も 2 も正しく、感染は両方の層で起こっている。

調査対象は、県内の 3 拠点病院に通院する HIV 陽性者で、セクシャリティを MSM と自ら明らかにしている者で、かつ、本調査に協力を得られた 49 名に調査票を配布した。分析は、調査票を回収できた 35 名を対象とした（有効回収率 71.4%）。調査期間は 2007 年 10 月 20 日～11 月 20 日までとした。調査項目は、1) 回答者属性に関する質問群、2) 感染告知以前の性行動に関する質問群、3) 感染告知以前の予防知識・認識・行動に関する質問群、4) 感染告知以前の情報入手経路に関する質問群、5) 予防情報への暴露状況に関連した質問群、これら 5 つの質問群とした。

結果、県内出身者は回答者の 80% を占めたが、そのうち 78% が県外で平均 9.6 年間の居住歴を有し、県外での性生活歴のあるのは 90% であった。感染告知以前の性行動に関しては、セックスパートナーを探す手段としては、ハッテン場が最も高く（42.9%）、次いで携帯サイト（21.4%）であり、ゲイバーは 5.4% と低かった。主な活動が県内である者は、携帯サイトを利用してパートナーを探す割合がさらに高くなった。感染告知以前の知識・認識・行動に関する質問群では、50% の者が「HIV は自分に関係ある問題」だと認識しながらも、情報収集に積極的だったのはわずか 20% であった。HIV に関してのイメージは、恥ずかしい（60%）、怖い病気（85.7%）というネガティブなものが多く、治療薬に対して楽観的な意見は少なかった。

今回の調査では、沖縄県における HIV の感染増大は仮説 1 を示唆し、仮説 2 を棄却する結果となった。沖縄県では、ネットやハッテン場へアウトリーチを実施していくことを検討すべきであり、また、MSM コミュニティ規模が小さい沖縄県では、ゲイバーと同時に介入することで、男性同性間による HIV 陽性者急増の状況を変える可能性が示唆された。

A. 研究目的

沖縄県における HIV 感染者の増加は 1999 年より顕著となり、2007 年の人口 10 万人あたりの新規感染者は 2.58 人と全国で 2 番目に高い陽性率となり、その 90% を MSM が占める (図 1)。MSM 集団は個別施策層としてこれまで数々の HIV 予防啓発に関する研究および事業が行われてきたが、大都市を中心としたモデル事業であり、本県のような地域の予防啓発モデルとして適切なのかは不明である。また、これまでの予防モデルの基礎データとなった対照群は、HIV 陽性者をわずかな部分集合とし、殆どが大規模な非 HIV 陽性である MSM 集団である。このことから HIV 陽性者に絞った調査にて、これまでのプログラムでは情報が届きにくい、いわゆる hard-to-reach population にあたるのか否かを検討する必要があると思われる。このような背景から本県で治療を受けている HIV 陽性者を対象に下記の仮説を検証し、MSM の HIV 感染者がいまだに減少に転じない理由を以下のように想定した。仮説 1: ゲイタウンを利用するのは MSM 集団の一部であり、MSM の多くは現在でも HIV/AIDS に関して脆弱な hard-to-reach population である、仮説 2: HIV 感染の多くはゲイタウンを利用しているゲイコミュニティの中で起こっている、仮説 3: 仮説 1 も仮説 2 も正しく、感染は両方の層で起こっている、これら 3 つの仮説を想定した。また HIV 陽性者の MSM は、感染する前にどのようなソーシャルネットワークを持ち、どのように HIV/STI 予防に関する情報に接していたのか、また、ネットワークのあり方は大都市と地方都市ではどう違い、どのように、予防の主体 (公的機関、研究者、CBO など) は、ネットワークに介入したらよいかなど、今後、本県における MSM 向け予防戦略の方向性を検証した。

B. 研究方法

1. 調査対象は、県内の 3 拠点病院に通院する HIV 陽性者で、セクシャリティを MSM と自ら明らかにしている者で、かつ、本調査に協力を得られた 49 名に調査票を配布した。分析は、調査票を回収できた 35 名を対象とした (有効回収率 71.4%)。
2. 調査期間は 2007 年 10 月 20 日～11 月 20 日の 1 ヶ月間とした。
3. アンケート配布および回収法
 - 1) 事前に口頭でアンケート調査の趣旨説明を行った。
 - 2) 参加の同意を得られた者に、後日アンケートを郵送または手渡しの何れかを、希望によって選択した。
 - 3) 無記名の自記式質問紙調査法。
 - 4) 回収法は無記名の封筒による郵送で匿名性を担保した。
4. アンケート概要
 - 1) 本研究班にて独自に作成した。
 - 2) 原則として 5 段階スケール評価を採用した。アンケートは下記の 5 群より構成した。
 - 3) 回答者属性に関する質問群
 - a. セクシャリティ
 - b. 年代(階層式)、
 - c. 出身地
 - d. 居住地と年数
 - e. 主な性交渉の場
 - 4) 感染告知以前の性行動に関する質問群
 - 5) 感染告知以前の予防意識・認識・行動に関する質問群
 - 6) 感染告知以前の情報入手経路に関する質問群
 - 7) 予防情報への暴露状況に関連した質問群
5. 個人情報の管理について
 - 1) 個人情報の紛失、流出、改ざんおよび漏洩などを防ぐため、個人情報を保有するのは研究代表者のみとし、情報管理上問題は発生しなかった。
 - 2) 法令等の順守について

個人情報保護に関して適用される法令、国のガイドラインを熟読し順守した。

C. 研究結果

1. 回答者属性に関する質問群(図2)では、30代を中心に正規分布し、セクシャリティはゲイを自認する者が80%であった。県内出身者は80%を占めたが、その78%が県外での平均9.6年の居住歴を有し、県外での性生活歴のあるのは90%であった(図3)。
2. 感染告知以前の性行動に関する質問群では感染告知以前の性行動に関しては、セックスパートナーを探す手段として、ハッテン場が最も高く(42.9%)、次いで携帯サイト(21.4%)であった。ゲイバーは5.4%と低かった。県内を主な活動の場としていた者は携帯サイトの利用がさらに高くなった(図4)。県内でのみ活動をする者では、その傾向はさらに顕著となった(図5)。ゲイタウンを利用するMSMを対象とした他の調査研究と比較するとゲイバーと携帯系サイトの利用率が相反する結果となった(図6)。
3. 感染告知以前の予防意識・認識・行動に関する質問群では、HIVに関して、恥ずかしい(60%)、怖い病気(85.7%)というネガティブなイメージが強く、治療薬に対して楽観的な意見は少ない結果となった(図7)。50%がHIVは自分に関係ある問題だと認識しながら、情報収集に積極的だったのはその内20%であった。(図8)
4. 感染告知以前の情報入手経路に関する質問群では、多い順からテレビ、ゲイ雑誌、新聞で84%を占めていた。
5. 感染告知以前の予防情報への暴露状況に関連した質問群では「十分な情報を得ていた」と回答したのは12.5%、「いいえ」と回答したのが25%で、「わからない」と回答したのが62.5%であった。

D. 考察

1. 県内出身者が、携帯などの出会い系サイト、有料・無料のハッテン場の使用が多いのは、プライバシー(セクシュアリティ)漏洩不安が強く、ゲイバーなどの対面接客を中心とするMSM対象施設利用を自主規制している可能性が大きいと考えられ、地方のゲイの必然的行動と推定された。
2. これらの層に対しては、ネットやハッテン場に対するアウトリーチが検討されるべきで、コミュニティの規模の小さい沖縄では、ゲイバーと同時に介入することで、男性同性間によるHIV陽性者急増の状況を大きく変える可能性が示唆された。

E. 結語

今回の調査より、沖縄県におけるHIVの感染増大は、仮説1「ゲイタウンを利用しないMSMの多くは、現在もHIV感染に対してhard-to-reach populationである」ことを示唆し、仮説2を棄却する結果となった。

F. 発表論文等

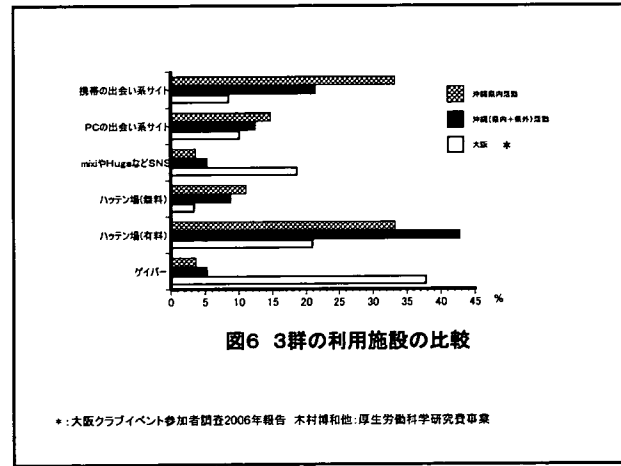
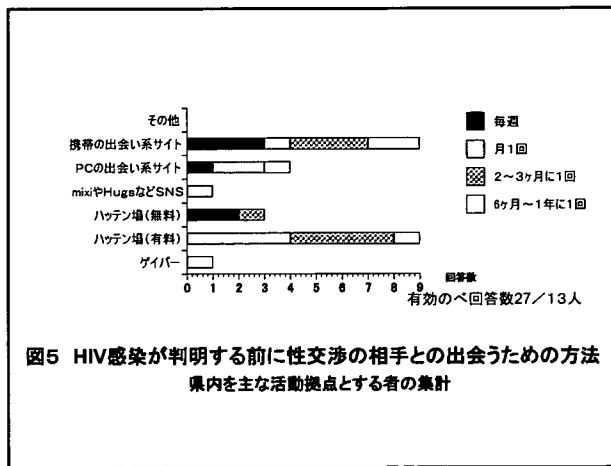
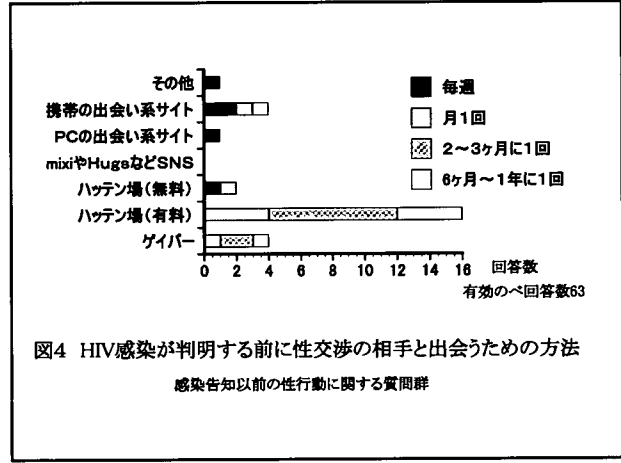
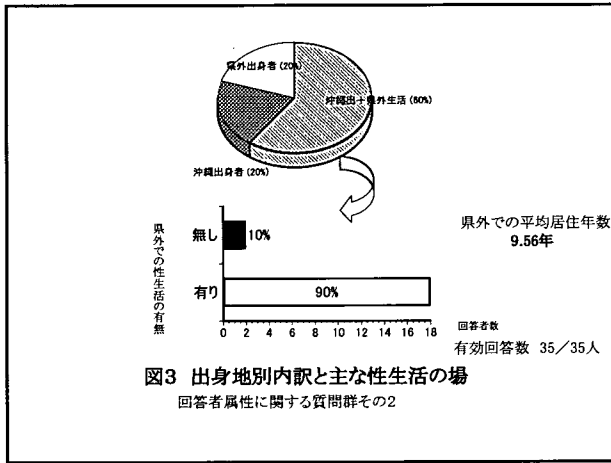
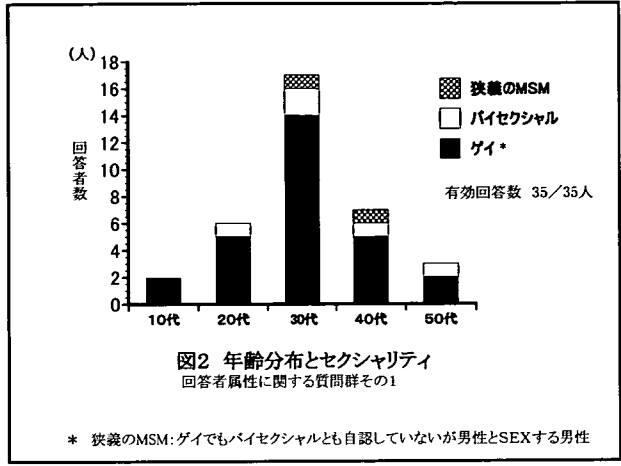
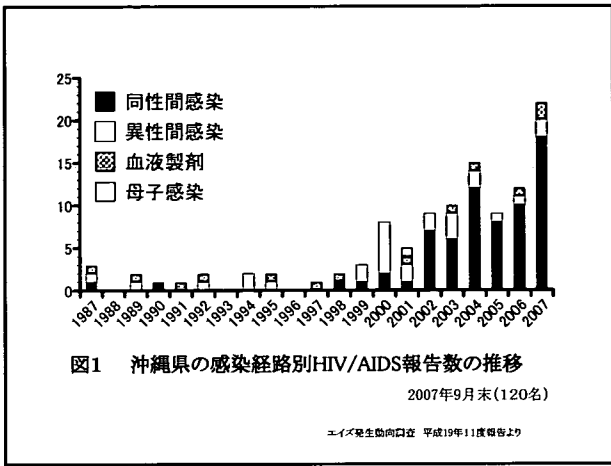
(研究論文)

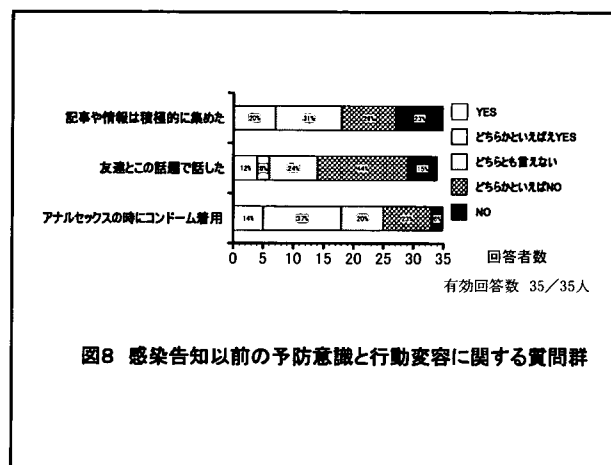
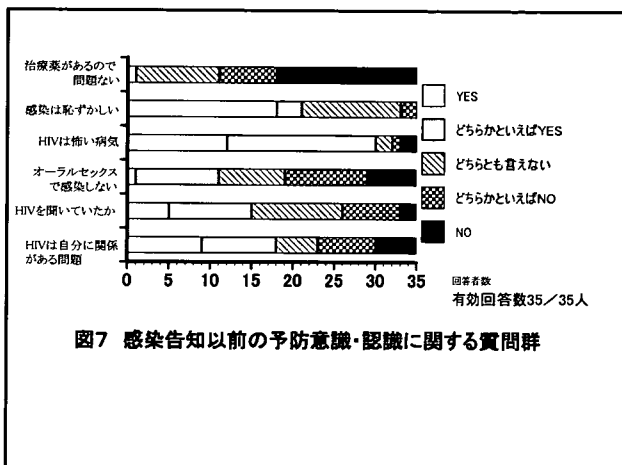
- 1) 日比谷健司、比嘉太、健山正男、藤田次郎：人獣共通感染症としての抗酸菌症，Kekkaku. 2007, 82:539-550.
- 2) 日比谷健司、比嘉太、健山正男、藤田次郎：Mycobacterium avium complex 感染症の病態と進展機序，Kekkaku, 82, 903-918.

(国内学会発表)

- 1) 原永修作、曾木美佐、當山真人、新里敬、比嘉太、健山正男、斎藤厚：上腸間膜静脈および門脈血栓症をきたしたAIDS症例の1例，感染症誌, 79, 217-218, 2005.
- 2) 原永修作、古堅誠、城間留奈、當山真人、新里敬、比嘉太、健山正男、斎藤厚：当院における肺限局の免疫再構築症候群の検討，日呼吸会誌, 43, 250, 2005.

- 3) 比嘉太、原永修作、屋良さとみ、古堅誠、城間留奈、當山真人、東正人、新里敬、仲村浩明、健山正男、兼島洋、斎藤厚：ニューモシスチス肺炎における気管支内視鏡診断，*気管支学*，2005，27・201.
- 4) 原永修作、健山正男：HAART 開始後に二度の免疫再構築症候群をきたしたと考えられる肺 MAC 症の 1 例，*日本エイズ会誌*，2005，7・316.
- 5) 仲村秀太、那覇、宮城一也、原永修作、比嘉太、健山正男、藤田次郎：Tenofovir (TDF) 過量内服にて急性腎不全を呈し血液透析にて改善した 1，*日本エイズ会誌*，8，2006，350.
- 6) 那覇唯、原永修作、仲村秀太、宮城一也、比嘉太、健山正男、藤田次郎：免疫再構築症候群を呈した AIDS 合併 Kaposi 肉腫の 1 例，*日本エイズ会誌*，2006，8・367.
- 7) 藤野真之他：2003-2005 年の新規 HIV-1 感染者における薬剤耐性頻度の動向，*日本エイズ会誌*，2006，8・409.
- 8) 宮城京子、健山正男、當間美奈子他：当院における HIV/AIDS 看護の意識調査，*日本エイズ会誌*，2006，8・387.
- 9) 宮城一也、原永修作、仲村秀太、比嘉太、健山正男、藤田次郎. CHOP 療法が奏功した AIDS 合併 anaplastic T cell Lymphoma の 1 例，*日本エイズ会誌*，2006，8・379.
- 10) 辻真理子、山本政弘、城崎真弓、井上緑、健山正男：ブロック拠点病院、拠点病院、行政間の連携における出張研修の効果，*日本エイズ会誌*，2006，8・334.
- 11) 當間智、山城剛、伊禮史朗、小橋川ちはる、渡辺貴子、井濱康、上間恵理子、富盛宏、仲村将泉、前田企能、前城達次、岸本一人、仲本学、平田哲生、金城渚、外間昭、佐久川廣*、金城福則、健山正男、藤田次郎：C 型肝炎ウイルス増殖に関する HIV Protease Inhibitor の作用，第 49 回日本消化器病学会総会，*日本消化器病学会誌*，2007，104，A684.
- 12) 田里大輔、仲村秀太、那覇唯、原永修作、比嘉太、健山正男、藤田次郎：ST 合剤による 2 次予防中に再燃をきたした AIDS 合併ニューモシスチス肺炎の一例—免疫再構築症候群と日和見感染症再燃の異同について—，*日本エイズ会誌*，2007，9・518.
- 13) 宮城京子、健山正男、諸見牧子、松茂良揚子、石郷岡美穂、大城市子、石川章子、田里大輔、仲村秀太、比嘉太、藤田次郎：離島病院の医療体制構築に向けて，*日本エイズ会誌*，2007，9・548.
- 14) 健山正男：MSM 向け感染対策における医療者の情報の活用—シンポジウム—，*日本エイズ会誌*，2007，9・352.
- 15) Kenji Hibiya, Kunitaro Miyagi, Yoko Oda, Eiji Oda: Epidemiological study on *Mycobacterium avium* infection in pigs, 7th International congress on AIDS in Asia and the pacific (Koube, July, 2005)





Ⅲ. 調査研究報告（地域別）

東京における予防啓発の評価に関するクラブ調査による研究

研究協力者：木村博和（横浜市健康福祉局）、佐藤 未光、張 由紀夫（Rainbow Ring）
日高庸晴（京都大学大学院/エイズ予防財団）、中村久美子（MSM感染対策研究班）
市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

東京におけるゲイボランティアによるHIV予防啓発プロジェクトRainbow Ringによる各プログラムの効果を評価するため、2007年6月に東京都江東区新木場地区で、8月と10月に新宿区新宿二丁目地区のゲイ向けクラブイベントの参加者に対して質問紙調査を行い、HIV/STI予防に関する知識や意識、行動と予防啓発プログラムへの接触状況について調査した。質問紙の総回収数は725件、このうち回答内容からMSMと判定した1,039人（平均年齢28.6歳）を分析対象とした。

予防知識の正答率は、延命治療が可能72%、検査のウインドウ期79%、STI感染の影響72%、油性潤滑剤によるコンドーム易破損性54%であり、延命治療の正答率は前回2005年より増加傾向を示していた。過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム常用率は、特定相手との挿入時では55%、不特定相手との挿入時61%であり、前回調査より低下傾向を示した。過去1年間のコンドーム購入経験は51%で、2005年より増加していた。過去1年間の抗体検査の受検率は37%で、2005年と同様であった。しかしRainbow Ringの予防啓発プログラムへの接触状況をみるとコミュニティセンターの認知度49%へと増加していたが、啓発コンドームの入手率は42%で2005年とほぼ同様であった。ふれいす東京との協働によるHIV陽性者の手記の普及啓発プログラムのひとつLiving Together Loungeの認知度は25%であった。今回の調査を年齢別にみると20代前半では予防知識の正答率が低かったが、啓発プログラムへの接触状況や予防行動に明確な違いは認めなかった。

以上より予防啓発プログラムと予防行動との関連については、予防行動と予防知識や意識、態度、さらに啓発プログラムへの接触状況との関連について検討し、明確にする必要があると考えられる。

A. 研究目的

東京では2002年9月からゲイボランティアによるHIV/STI予防啓発プロジェクトRainbow Ringが新宿二丁目のゲイコミュニティやNPOと連携しながら、MSM（Men who have sex with men）に対して予防啓発プログラムを実施してきている。2003年8月には啓発活動の拠点として新宿二丁目にコミュニティセンター（akta:アクタ）を開設し、活動の存在を実体として顕在化させ、予防啓発のより一層の普及、

促進を図っている。その効果や影響については、同地区のゲイ向けクラブイベント参加者への質問紙調査を定期的実施し、その予防に関する知識や意識、行動の動向を把握することによって検討してきた。

本研究班においても過去のクラブ調査と同様の調査を行い、年齢別の知識や意識、行動、プログラム接触状況と、その年次推移を把握ことにより、2007年6月までに実施した予防啓発プログラムの効果、影響について検討したので、

その結果を報告する。

B. 研究方法

2007年6月から10月に東京都江東区新木場、並びに新宿区新宿二丁目地区で開催された3回のゲイ向けクラブイベントの参加者を対象として無記名の自記式質問紙調査を行った。イベント会場において調査員が調査の趣旨と内容を口頭で説明、協力を依頼し、同意の得られた人にその場で質問紙を配布し、回答を依頼した。記入した質問紙は当日その会場内で回収し、回答者には謝礼としてドリンクチケットを渡した。なお回答者のプライバシーに配慮し、回収時には無回答や誤回答のチェックは一切行わなかった。回収数は1,100件であった。

質問紙は本研究班で独自に作成したもので、調査項目はHIV/STI予防の知識6問、HIV予防の意識3問、性行動4問、予防行動4問、受検行動1問、Rainbow Ringの予防啓発関係5問、人口統計学的項目4問の全24問からなっていた。

分析対象者は、重複回答者を除外した上で、①自認するセクシャリティに関する質問にゲイまたはバイセクシャル、わからない、その他のいずれかと回答した人、あるいは②性行動に関する質問で過去に男性とセックスの経験ありと回答した人1039人とした。

対象者を年齢により4グループに分類し、各年齢層間の回答の分布を比較することにより各年齢群の特徴を明らかにした。各質問と年齢との関連の有無を検討する際には統計的検定の有意確率（おおむね $p < 0.1$ ）を指標として考慮した。統計的検定には質問の回答が名義尺度のときには χ^2 検定を、順序尺度のときにはKruskal-Wallis検定を行なった。回答の集計、統計的検定にはパソコン用統計解析パッケージHALBAU for Windows Ver. 5.44（現代数学社、京都、2002年）を使用した。

C. 研究結果

1. 回答者の属性と施設等の利用状況

回答者の平均年齢は28.6歳（標準偏差5.8歳）であった。年齢階級別にみると、24歳以下が29%、25～29歳28%、30～34歳28%、35～44歳14%、45歳以上1%であった。

回答者の居住地等の属性について年齢階級別にみたものを別表1に示す。表中の総数は45歳以上の10人と年齢不明の9人を含む1,039人の回答状況である。回答者の居住地は東京都内64%、千葉・埼玉・神奈川28%であった。年齢別にみると24歳以下では埼玉がやや多かった。自認するセクシャリティ（性的指向）はゲイまたはバイセクシャルが全体の99%を占めていた。

回答者の過去6か月間の施設などの利用状況とアナルセックスの経験について年齢階級別にみたものを別表2に示す。新宿二丁目地区に行く頻度は、行かなかった8%、半年に1～2回17%、半年に3～5回16%、月に1～3回36%、週に1回以上23%であり、月に1回以上訪れると回答した人が約6割を占めていた。

過去6か月間の施設などの利用状況をみると、全体の約7割弱がミクシィを、6割弱がゲイナイトを、約3割がハッテン場や出会い系サイトを利用していた。年齢別にみると出会い系サイトの利用は若い世代に多かった。一方ハッテン場やゲイバーの利用は比較的年齢の高い世代で多かった。

過去6か月間にアナルセックスを経験した人は全体の75%であった。相手人数は30代後半で5人以上と回答した人が多い傾向がみられた。

2. 啓発プログラムへの接触状況

Rainbow Ringが展開する予防啓発プログラムへの接触状況について別表3に示す。全体の約5割がコミュニティセンター（akta:アクタ）を知っている（「聞いたことがある」と「行ったことがある」の合計）と回答した。また約4割が啓発用 Condom を過去1年間に受け取ったことがあると回答した。

コミュニティセンター等で開催するプログラ

ム等のいずれかを知っていると回答したのは30%、その大半をLiving Together Lounge (LT ラウンジ) とLiving Togetherのど自慢が占めていた。

年齢別にみると、24歳以下の若い人たちに若者向けSTD勉強会 (G02 'Nゴツスタ) が多くみられた。

啓発用コンドームの入手先は、ゲイバー、イベント会場の順であった。年齢別にみると35歳以上でイベント会場が多く、24歳以下ではコミュニティセンターが多かった。

3. HIV/STI予防の知識と意識

回答者のHIV/STI予防に関する知識や意識についての集計結果を別表4に示す。正答率が比較的高かったのは「シャワ浣洗浄による予防の無効性」92%、「抗体検査のウインドウ期」79%、「抗HIV薬による延命治療」72%、「STI感染の影響によるHIV感染しやすさ」72%であった。逆に低かったのは「即日検査や自宅用検査キットでは感染していなくても誤って陽性と判定されることがあること」62%、「コンドームを油性潤滑剤と併用すると破けやすくなること」の54%であった。

年齢群間で正答率に違いが見られたのは「延命治療」と「STI感染の影響」、「シャワ浣洗浄」であった。「延命治療」の正答率は20代後半が他の年齢層より10ポイント以上低く、「STI感染の影響」では30代後半が高かった。

過去の性行動を振り返ってHIVに感染する可能性があったと思うかという問に対して、約2割の回答者が「十分可能性があった」と回答した。回答者で身近に陽性者の存在を自覚している(「いる」または「いると思う」の合計)と回答した人は約5割に達していた。年齢との関係を見ると年齢が高くなるほど身近な陽性者の存在を感じている人が多かった。「感染したらセックスできなくなる」と感じている人は39%、「予防も大切だが相手とナマでつながりたい」人は11%、「ゴムが手元にあっても使わないと

思う」人は9%であった。年齢との関係を見ると若い人ほど「感染したらできなくなる」、「手元にあっても使わない」と思う人が多い傾向が認められた。

4. コンドーム使用状況について

過去6か月間のコンドーム使用状況と購入経験について別表5に示す。

相手・行為別のコンドームの使用状況についてみると、特定相手との挿入(タチ)時の常用率(「毎回使った」人の割合)が55%、不特定相手(その場限りの相手)との挿入(タチ)時の常用率61%であった。また「まったく使わなかった」の割合は特定相手10%、不特定相手4%であり、コンドーム使用頻度は特定相手より不特定相手の方が高かった。また「最後にしたアナルセックス」でのコンドーム使用でも特定の相手との場合よりその場限りの人との場合の方が使用率(「使った」と回答した人の割合)は高かった。

セックス時の併用品として水溶性ゼリーは7割が、ラッシュは2割が使用していた。コンドーム購入経験についてみると、アナルセックス経験者では半数以上が「ある」と回答し、その購入先はドラッグストア、コンビニ、ゲイショップの順であった。年齢との関連をみるとドラッグストアでの購入は年齢が高いほど多かった。

5. 抗体検査の受検状況と相談相手について

HIV抗体検査の受検経験に関する集計結果を別表6に示す。

過去1年間の抗体検査の受検率は37%、受検場所では「保健所」、「病院・クリニック」、「南新宿検査相談室」の順であった。年齢との間には特に関連を認めなかった。

6. 東京クラブ調査の年次推移

東京地区の過去3回のクラブ調査の結果と今回の結果を比較したものを別表7に示す。

分析対象者数は2002年の1.9倍、2005年よ

り約 100 人増加していた。その平均年齢は 5 年前の 2002 年の調査より 1.5 歳高くなっていた。居住地は過去 3 回の調査より東京都内の割合がやや減少していた。

東京地区の啓発プログラムへの接触状況についてみると、コミュニティセンター・アクタを知っている人（「聞いたことがある」人と「行ったことがある」人の合計）は 2003 年の 21% から 49.3% へと大きく増加していたが、啓発用コンドームの受け取り経験者の割合はほとんど変わらなかった。受取り場所はゲイバーが増加し、イベント会場が減少していた。予防知識の正答率についてみると、抗 HIV 薬の延命治療効果の正答率が 2005 年より増加していた。

コンドームの使用状況等についてみると、特定相手と「毎回使った」人は 2005 年とほとんど変わらなかったが、不特定相手と「毎回使った」人はわずかに減少傾向を示していた。「全く使わなかった」人は減少していた。最後のセックス時のコンドーム使用については不特定相手との場合では増加していた。セックス時の併用品としてコンドームや水溶性ゼリーをあげる人は増加していた。コンドームの購入についても「買ったことがある」人は年々増加していた。ラッシュやゴメオの使用は減少していた。抗体検査の受検率は 2005 年とほとんど変わらなかったが、各受検場所についてみると南新宿検査相談室は前回より減少していた。

D. 考察

東京のゲイボランティアによる予防啓発プロジェクト Rainbow Ring の展開する予防啓発プログラムの効果を評価し、また新たな予防啓発プログラムを模索するため、2000 年から 2005 年まで、ほぼ一年半おきに、クラブイベント参加者を対象とした質問紙調査を実施してきた。クラブ利用者という特定の集団であるが毎年同様の MSM 集団の予防に関する知識や意識、行動を調査し、その年次推移を比較、検討することにより、各プログラムの有効性について検討して

きた。2005 年からは調査地区を新宿地区（新宿二丁目と歌舞伎町）から江東区新木場地区と新宿二丁目地区に変更し、新宿二丁目に来ない MSM への調査が可能となった。調査の実施手順は、過去の調査結果との比較を可能にするため、大きく異なる点はない。質問紙は 2002 年まで A4 版 2 ページで 40 問程度のものを使用していたが、回収率や回答率が低かったため、2003 年からは 25 問程度に質問数を減らしている。それ以降今回の質問紙も含めて質問数はほとんど変わっていない。質問内容は各年次のプログラムの展開に応じた若干の変更点はあるが、全体的に大きな違いはない。今回の調査で変更した点はコミュニティセンター他で開催する各プログラムや陽性者の手記への接触状況、インターネットの利用状況、新宿二丁目地区への来所頻度、シャワ流洗浄の無効性に関する知識、感染予防に関する意識や態度についての質問を追加したこと、南新宿検査相談室の土日検査についての質問を削除したことなどである。

今回の調査の目的は年齢階級別の集計結果から各年齢層へのプログラムの影響について検討すること、今回の結果を過去の調査結果と比較しその動向を把握することにある。

年齢別の集計結果をみると一部の性行動や知識や意識、態度で年齢との関連が認められた。

性行動については出会い系サイトなどインターネット媒体の利用は年齢の若い人たちに多く、ゲイバーやハッテン場、ラッシュの利用は若い人たちでは少なかった。若い人に東京以外の居住者が多いこと、新宿二丁目への来訪頻度に差が見られないこと、本調査がクラブイベント参加者を対象としていることを考えると、若い人が街に出てこなくなったというより、若い人ほどネットを利用した出会いを頻繁に利用していると考えられる。

予防に関する知識では、延命治療や STI 感染による HIV 感染リスクの増加に関する知識の正答率が特に 20 代前半で低く、全体の正答数も少なかった。予防に関する意識では「HIV に感

染したら、もうセックスできなくなる」と思っている人は全体に多かったが、特に20代前半で多かった。HIV陽性者の手記を読んだことがない人や、陽性者を身近に感じていない人も20代前半に多かった。若い人たちへの啓発では単に疾病や予防方法に関する情報を伝えるだけではなく、陽性者の存在を身近に感じられるようにしていく必要があると思われる。ただ年齢とコンドーム使用や抗体検査の経験に関連が見られなかったことから、予防行動に繋がる啓発方法については、これら予防行動がどのような要因と関連するのか検討した結果を参考にしながら考える必要があると思われる。

年次推移にいてみるとコミュニティセンター・アクタへの接触状況は高くなっており、着実に定着している状況がうかがえる。また抗HIV薬の延命治療の効果についての正答率が高くなっていた。Rainbow Ringでは、ここ数年、ぷれいす東京と協働でHIV陽性者手記の普及プログラムLiving Together計画を実施してきている。これらを通じて陽性者の生活を知ることが延命治療の正答率増加の背景にあるかもしれない。またゴメオやラッシュの使用頻度は2005年より減少していた。これら薬物の販売が法的に規制された効果と考えられる。コンドーム使用、抗体検査の受検経験とも今回の調査では特に変化が見られず予防行動について行動変容を促すことの難しさが示唆された。

今後、予防行動と予防に関する知識や意識、態度、予防プログラムへの接触状況との関連について分析し、行動変容に関連する要因について明らかにしていく必要があると考えられる。

E. 結語

Rainbow RingによるHIV/STI予防啓発プログラムの効果について評価するため、東京地区のクラブイベント参加者に質問紙調査を行った。予防に関する知識や意識、行動とプログラムへの接触状況については過去の同様の調査結果と比較し、また年齢階級別の集計を行ない検討し

た。その結果20前半の年齢層で予防知識の正答率が低かった。過去の調査と比較してコミュニティセンターへの接触頻度は増加していたが、予防行動の改善は認められなかった。今後、予防行動と予防介入との関連を検討していく必要がある。

別表1 対象者の属性

	総数* (%) n=1039	～24歳(%) n=285	25～29歳(%) n=277	30～34歳(%) n=283	35～44歳(%) n=141	p値*
調査日						
イベントA	754 (72.6)	131 (46.0)	227 (81.9)	240 (84.8)	116 (82.3)	<0.00001
イベントB	143 (13.8)	122 (42.8)	10 (3.6)	3 (1.1)	1 (0.7)	
イベントC	142 (13.7)	32 (11.2)	40 (14.4)	40 (14.1)	24 (17.0)	
回答経験						
ない	934 (90.2)	257 (90.2)	256 (92.8)	246 (86.9)	130 (92.9)	0.23066
以前にある	77 (7.4)	23 (8.1)	14 (5.1)	29 (10.2)	9 (6.4)	
わからない	25 (2.4)	5 (1.8)	6 (2.2)	8 (2.8)	1 (0.7)	
インターネット利用						
利用しない	38 (3.7)	10 (3.5)	7 (2.5)	13 (4.6)	0 (0)	0.15215
ときどき	158 (15.2)	36 (12.7)	46 (16.6)	36 (12.7)	22 (15.6)	
よく利用する	842 (81.1)	238 (83.8)	224 (80.9)	234 (82.7)	119 (84.4)	
居住地						
東京	658 (63.5)	163 (57.2)	176 (63.5)	188 (66.7)	97 (69.3)	0.00264
神奈川	122 (11.8)	39 (13.7)	34 (12.3)	26 (9.2)	17 (12.1)	
埼玉	82 (7.9)	39 (13.7)	17 (6.1)	14 (5.0)	7 (5.0)	
千葉	67 (6.5)	22 (7.7)	18 (6.5)	17 (6.0)	5 (3.6)	
その他	107 (10.3)	22 (7.7)	32 (11.6)	37 (13.1)	14 (10.0)	
セクシャリティ						
ゲイ	920 (89.2)	242 (85.5)	249 (90.5)	260 (91.9)	132 (95.0)	0.16191
バイセクシャル	99 (9.6)	38 (13.4)	24 (8.7)	22 (7.8)	7 (5)	
わからない	3 (0.3)	1 (0.4)	2 (0.7)	0 (0)	0 (0)	
その他	6 (0.6)	1 (0.4)	0 (0)	1 (0.4)	0 (0)	
ヘテロ	3 (0.3)	1 (0.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	

*総数:年齢が不明と45歳以上の9人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定,その他は χ^2 検定による。

別表2 施設等の利用状況と性行動

	総数* (%) n=1039	～24歳(%) n=285	25～29歳(%) n=277	30～34歳(%) n=283	35～44歳(%) n=141	p値*
新宿への回数(/6W)						
行かなかった	90 (8.7)	25 (8.8)	18 (6.5)	21 (7.4)	11 (7.9)	0.18630
半年に1～2回	172 (16.6)	42 (14.7)	43 (15.6)	53 (18.7)	21 (15.0)	0.19421 kw
半年3～5回	158 (15.3)	40 (14)	32 (11.6)	56 (19.8)	27 (19.3)	
月に1～3回	376 (36.3)	105 (36.8)	117 (42.5)	91 (32.2)	54 (38.6)	
毎週	239 (23.1)	73 (25.6)	65 (23.6)	62 (21.9)	27 (19.3)	
過去6ヵ月間の利用施設						
上野・浅草のゲイバー	74 (7.2)	18 (6.3)	13 (4.7)	20 (7.2)	9 (6.4)	0.68282
新橋のゲイバー	184 (17.8)	26 (9.1)	47 (17.1)	60 (21.5)	43 (30.5)	<0.00001
渋谷のゲイバー	152 (14.7)	21 (7.4)	47 (17.1)	44 (15.8)	26 (18.4)	0.00141
ゲイナイト	612 (59.3)	163 (57.2)	164 (59.6)	177 (63.4)	94 (66.7)	0.20754
出会い系サイト(PC用)	276 (26.7)	94 (33.0)	83 (30.2)	62 (22.2)	33 (23.4)	0.01631
出会い系サイト(携帯用)	245 (23.7)	93 (32.6)	73 (26.5)	54 (19.4)	20 (14.2)	0.00004
mixi(ミクシィ)	695 (67.3)	208 (73.0)	193 (70.2)	190 (68.1)	90 (63.8)	0.25227
HUGs(ハグス)	157 (15.2)	36 (12.6)	48 (17.5)	38 (13.6)	30 (21.3)	0.07404
マンション系ハッテン場	185 (17.9)	45 (15.8)	55 (20.0)	52 (18.6)	29 (20.6)	0.53105
サウナ系ハッテン場	142 (13.8)	16 (5.6)	46 (16.7)	36 (12.9)	38 (27.0)	<0.00001
その他のハッテン場	83 (8.0)	19 (6.7)	19 (6.9)	28 (10.0)	17 (12.1)	0.15226
出会い系サイト利用種類数(再掲)						
なし	654 (63.4)	155 (54.4)	167 (60.7)	188 (67.4)	100 (70.9)	0.00048
1種類	235 (22.8)	73 (25.6)	60 (21.8)	66 (23.7)	29 (20.6)	0.00021 kw
2種類	143 (13.9)	57 (20.0)	48 (17.5)	25 (9.0)	12 (8.5)	
商業系ハッテン場利用種類数(再掲)						
なし	755 (73.2)	232 (81.4)	190 (69.1)	201 (72.0)	89 (63.1)	0.00019
1種類	227 (22.0)	45 (15.8)	69 (25.1)	68 (24.4)	37 (26.2)	0.00011 kw
2種類	50 (4.8)	8 (2.8)	16 (5.8)	10 (3.6)	15 (10.6)	
合計	1032 (100)	285 (100)	275 (100)	279 (100)	141 (100)	
男性セックス経験						
あり	984 (94.7)	264 (92.6)	266 (96.0)	272 (96.1)	138 (97.9)	0.05994
なし	55 (5.3)	21 (7.4)	11 (4.0)	11 (3.9)	3 (2.1)	
アナルセックス経験						
あり	730 (74)	188 (71.2)	208 (77.6)	204 (75.0)	101 (73.2)	0.38868
なし	256 (26)	76 (28.8)	60 (22.4)	68 (25.0)	37 (26.8)	
アナルセックス相手人数別						
1人	177 (24.3)	52 (27.7)	46 (22.1)	52 (25.6)	25 (24.8)	0.04971
2～4人	171 (23.5)	51 (27.1)	53 (25.5)	50 (24.6)	11 (10.9)	0.37278 kw
5人以上	196 (26.9)	39 (20.7)	58 (27.9)	53 (26.1)	38 (37.6)	
無回答	185 (25.4)	46 (24.5)	51 (24.5)	48 (23.6)	27 (26.7)	

*総数:年齢が不明と45歳以上の9人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定,その他は χ^2 検定による。

別表3 Rainbow Ringのプログラムへの接触状況

	総数* (%) n=1039	~24歳(%) n=285	25~29歳(%) n=277	30~34歳(%) n=283	35~44歳(%) n=141	p値*
Akta(アクタ)認知						
初めて聞いた	525 (50.7)	142 (50.0)	132 (47.8)	154 (54.6)	69 (49.3)	0.12307
聞いたことがある	294 (28.4)	69 (24.3)	84 (30.4)	83 (29.4)	41 (29.3)	0.19262 kw
行ったことがある	216 (20.9)	73 (25.7)	60 (21.7)	45 (16.0)	30 (21.4)	
Rainbow Ringのコンドーム受取経験						
3ヶ所	21 (2.0)	8 (2.8)	6 (2.2)	4 (1.4)	3 (2.1)	0.51945
2ヶ所	33 (3.2)	8 (2.8)	5 (1.8)	13 (4.7)	7 (5.0)	0.35235 kw
1ヶ所	380 (36.9)	101 (35.4)	97 (35.3)	98 (35.3)	57 (40.7)	
なし	597 (57.9)	168 (58.9)	167 (60.7)	163 (58.6)	73 (52.1)	
Rainbow Ringのコンドーム受取場所						
ゲイバー	290 (28.1)	75 (26.3)	75 (27.3)	85 (30.6)	37 (26.4)	0.67110
イベント会場	154 (14.9)	42 (14.7)	33 (12.0)	41 (14.7)	32 (22.9)	0.03398
アクタ	59 (5.7)	24 (8.4)	14 (5.1)	9 (3.2)	9 (6.4)	0.06133
Rainbow Ringの啓発プログラム認知数						
6種類	15 (1.5)	7 (2.5)	4 (1.5)	1 (0.4)	3 (2.2)	0.62191
5種類	6 (0.6)	3 (1.1)	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.7)	0.42593 kw
4種類	12 (1.2)	4 (1.4)	5 (1.8)	2 (0.7)	1 (0.7)	
3種類	17 (1.7)	4 (1.4)	3 (1.1)	5 (1.8)	4 (2.9)	
2種類	50 (4.9)	18 (6.4)	15 (5.5)	9 (3.3)	6 (4.4)	
1種類	207 (20.4)	48 (17.1)	57 (21.0)	58 (21.0)	32 (23.4)	
なし	710 (69.8)	196 (70.0)	187 (68.8)	200 (72.5)	90 (65.7)	
Rainbow Ring啓発プログラム別認知割合						
LTラウンジ	252 (24.8)	70 (25.0)	70 (25.7)	65 (23.6)	40 (29.2)	0.66376
LTのど自慢	83 (8.2)	23 (8.2)	28 (10.3)	16 (5.8)	12 (8.8)	0.28811
GO2'N(ゴツスタ)	53 (5.2)	31 (11.1)	11 (4.0)	3 (1.1)	5 (3.6)	0.00000
PRHYTHM(プリズム)	57 (5.6)	18 (6.4)	14 (5.1)	11 (4.0)	13 (9.5)	0.13938
ACADEMIA(アカデミア)	27 (2.7)	10 (3.6)	7 (2.6)	3 (1.1)	4 (2.9)	0.29542
アクタ・マンスリー	54 (5.3)	17 (6.1)	15 (5.5)	12 (4.3)	9 (6.6)	0.75688
HIV感染手記						
ある	584 (65.4)	150 (59.5)	148 (62.4)	166 (68.6)	91 (78.4)	0.01927
ない	284 (31.8)	93 (36.9)	82 (34.6)	69 (28.5)	24 (20.7)	
わからない	25 (2.8)	9 (3.6)	7 (3.0)	7 (2.9)	1 (0.9)	

*総数:年齢が不明と45歳以上の9人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定,その他は χ^2 検定による。

別表4 HIV/STI予防に関する知識・意識

	総数* (%) n=1039	~24歳(%) n=285	25~29歳(%) n=277	30~34歳(%) n=283	35~44歳(%) n=141	p値*
HIV関連知識(正答率)						
HIVの延命治療について	749 (72.1)	186 (65.3)	208 (75.1)	212 (74.9)	108 (76.6)	0.01541
検査ウィンドウ期について	816 (78.5)	226 (79.3)	229 (82.7)	226 (79.9)	106 (75.2)	0.34305
HIV迅速感染キットの誤反応	646 (62.2)	166 (58.2)	179 (64.6)	177 (62.5)	98 (69.5)	0.13016
コンドーム耐性について	559 (53.8)	143 (50.2)	147 (53.1)	159 (56.2)	81 (57.4)	0.39689
STI感染によるHIV易感染性	745 (71.7)	192 (67.4)	207 (74.7)	195 (68.9)	118 (83.7)	0.00181
シャブ洗浄	953 (91.7)	259 (90.9)	262 (94.6)	261 (92.2)	137 (97.2)	0.06617
HIV関連知識正答数						
6問	249 (24.0)	58 (20.4)	68 (24.5)	69 (24.4)	43 (30.5)	0.21939
5問	271 (26.1)	77 (27.0)	79 (28.5)	75 (26.5)	36 (25.5)	0.01783 kw
4問	251 (24.2)	60 (21.1)	72 (26.0)	70 (24.7)	35 (24.8)	
3問	149 (14.3)	48 (16.8)	36 (13.0)	37 (13.1)	20 (14.2)	
2問	70 (6.7)	22 (7.7)	14 (5.1)	22 (7.8)	4 (2.8)	
1問	27 (2.6)	10 (3.5)	5 (1.8)	6 (2.1)	2 (1.4)	
なし	22 (2.1)	10 (3.5)	3 (1.1)	4 (1.4)	1 (0.7)	
自身のエイズにかかる可能性						
絶対ない	141 (13.6)	42 (14.8)	36 (13.0)	34 (12.1)	10 (7.1)	0.73227
ほとんどない	309 (29.7)	81 (28.6)	80 (28.9)	85 (30.1)	50 (35.5)	
五分五分	285 (27.4)	75 (26.5)	79 (28.5)	81 (28.7)	39 (27.7)	
十分可能性がある	227 (21.8)	63 (22.3)	66 (23.8)	58 (20.6)	32 (22.7)	
わからない	77 (7.4)	22 (7.8)	16 (5.8)	24 (8.5)	10 (7.1)	
HIV感染者認知						
いる	377 (36.4)	67 (23.6)	88 (31.8)	121 (42.8)	76 (53.9)	<0.00001
いると思う	158 (15.2)	41 (14.4)	44 (15.9)	43 (15.2)	23 (16.3)	
いないと思う	170 (16.4)	60 (21.1)	54 (19.5)	33 (11.7)	12 (8.5)	
いない	265 (25.6)	96 (33.8)	69 (24.9)	67 (23.7)	24 (17.0)	
わからない	67 (6.5)	20 (7.0)	22 (7.9)	19 (6.7)	6 (4.3)	
意識						
手元のゴムも使わない	90 (8.7)	31 (10.9)	20 (7.2)	20 (7.1)	5 (3.5)	0.05281
感染したらもうできない	408 (39.3)	133 (46.7)	102 (36.8)	108 (38.3)	46 (32.6)	0.01929
予防よりナマでつながりたい	109 (10.5)	24 (8.4)	27 (9.7)	32 (11.3)	18 (12.8)	0.48420

*総数:年齢が不明と45歳以上の9人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定,その他は χ^2 検定による。

別表5 過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用状況

	総数* (%) n=1039	~24歳(%) n=285	25~29歳(%) n=277	30~34歳(%) n=283	35~44歳(%) n=141	p値#
コンドーム常用						
常用	161 (15.5)	30 (10.5)	50 (18.1)	53 (18.7)	21 (14.9)	0.02952
非常用	878 (84.5)	255 (89.5)	227 (81.9)	230 (81.3)	120 (85.1)	
特定相手とのゴム使用頻度(タチ)n=542						
無回答	58 (10.7)	16 (12.5)	17 (11.3)	16 (10.1)	7 (8.5)	0.52367
全く不使用	56 (10.3)	18 (14.1)	10 (6.6)	17 (10.8)	9 (11.0)	0.31524 kw
不使用多い	41 (7.6)	12 (9.4)	11 (7.3)	8 (5.1)	7 (8.5)	
半々	46 (8.5)	11 (8.6)	14 (9.3)	15 (9.5)	3 (3.7)	
使用多い	41 (7.6)	7 (5.5)	10 (6.6)	10 (6.3)	10 (12.2)	
毎回使った	300 (55.4)	64 (50.0)	89 (58.9)	92 (58.2)	46 (56.1)	
特定相手とのゴム使用頻度(ウケ)n=543						
無回答	89 (16.4)	23 (15.8)	22 (13.4)	25 (17.4)	16 (24.2)	0.84727
全く不使用	48 (8.8)	15 (10.3)	14 (8.5)	12 (8.3)	6 (9.1)	0.29318 kw
不使用多い	26 (4.8)	7 (4.8)	7 (4.3)	5 (3.5)	5 (7.6)	
半々	53 (9.8)	17 (11.6)	15 (9.1)	14 (9.7)	3 (4.5)	
使用多い	34 (6.3)	9 (6.2)	10 (6.1)	7 (4.9)	4 (6.1)	
毎回使った	293 (54.0)	75 (51.4)	96 (58.5)	81 (56.3)	32 (48.5)	
不特定相手とのゴム使用頻度(タチ)n=455						
無回答	62 (13.6)	21 (19.8)	12 (9.2)	13 (10.5)	10 (14.3)	0.52010
全く不使用	18 (4.0)	5 (4.7)	5 (3.8)	4 (3.2)	3 (4.3)	0.27745 kw
不使用多い	18 (4.0)	2 (1.9)	6 (4.6)	4 (3.2)	4 (5.7)	
半々	39 (8.6)	10 (9.4)	10 (7.6)	13 (10.5)	2 (2.9)	
使用多い	39 (8.6)	7 (6.6)	10 (7.6)	11 (8.9)	8 (11.4)	
毎回使った	279 (61.3)	61 (57.5)	88 (67.2)	79 (63.7)	43 (61.4)	
不特定相手とのゴム使用頻度(ウケ)n=468						
無回答	77 (16.5)	19 (15.4)	19 (13.2)	24 (20.3)	12 (19.7)	0.62147
全く不使用	15 (3.2)	6 (4.9)	3 (2.1)	3 (2.5)	1 (1.6)	0.43124 kw
不使用多い	15 (3.2)	2 (1.6)	6 (4.2)	2 (1.7)	3 (4.9)	
半々	33 (7.1)	12 (9.8)	7 (4.9)	8 (6.8)	2 (3.3)	
使用多い	36 (7.7)	9 (7.3)	10 (6.9)	9 (7.6)	6 (9.8)	
毎回使った	292 (62.4)	75 (61.0)	99 (68.8)	72 (61.0)	37 (60.7)	
最後のアナルでのゴム使用						
特定相手の場合(n=454)	232 (51.1)	70 (59.8)	61 (47.3)	68 (55.3)	29 (47.5)	0.18169
不特定相手の場合(n=323)	218 (67.5)	53 (64.6)	64 (70.3)	66 (75.0)	30 (61.2)	0.30292
セックス時併用品						
ゴム	708 (72.6)	185 (70.6)	204 (77.0)	193 (72.0)	96 (70.6)	0.33467
水溶性ゼリー	681 (69.8)	180 (68.7)	200 (75.5)	185 (69.0)	98 (72.1)	0.28149
ラッシュ	204 (20.9)	44 (16.8)	67 (25.3)	51 (19.0)	33 (24.3)	0.06471
ゴメオ	23 (2.4)	7 (2.7)	7 (2.6)	5 (1.9)	3 (2.2)	0.91907
他の合ドラ	34 (3.5)	8 (3.1)	9 (3.4)	7 (2.6)	6 (4.4)	0.80444
コンドーム購入経験の有無						
4箇所	1 (0.1)	0 (0)	1 (0.4)	0 (0)	0 (0)	0.03987
3箇所	10 (1.0)	3 (1.1)	6 (2.2)	1 (0.4)	0 (0)	
2箇所	68 (6.6)	20 (7.2)	19 (6.9)	19 (6.7)	10 (7.1)	
1箇所	440 (42.8)	95 (34.1)	121 (44.0)	135 (47.9)	65 (46.4)	
なし	508 (49.5)	161 (57.7)	128 (46.5)	127 (45.0)	65 (46.4)	
購入場所						
薬局等	328 (31.9)	66 (23.7)	101 (36.7)	100 (35.5)	50 (35.7)	0.00293
コンビニ等	137 (13.3)	45 (16.1)	39 (14.2)	35 (12.4)	12 (8.6)	0.17338
ゲイショップ	94 (9.2)	26 (9.3)	27 (9.8)	25 (8.9)	13 (9.3)	0.98524
ハッテン場	51 (5.0)	7 (2.5)	14 (5.1)	16 (5.7)	10 (7.1)	0.14528

*総数:年齢が不明と45歳以上の9人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定,その他は χ^2 検定による。

別表6 回答者の過去1年間のエイズ検査の受検状況

	総数* (%) n=1039	~24歳(%) n=285	25~29歳(%) n=277	30~34歳(%) n=283	35~44歳(%) n=141	p値#
エイズ検査受検の有無						
3箇所	1 (0.1)	0 (0)	0 (0)	1 (0.4)	0 (0)	0.76205
2箇所	8 (0.8)	2 (0.7)	1 (0.4)	3 (1.1)	2 (1.4)	
1箇所	374 (36.1)	93 (32.6)	103 (37.2)	103 (36.7)	51 (36.4)	
なし	653 (63.0)	190 (66.7)	173 (62.5)	174 (61.9)	87 (62.1)	
エイズ検査受検場所						
病院・医院	130 (12.5)	23 (8.1)	31 (11.2)	41 (14.6)	25 (17.9)	0.01491
保健所	175 (16.9)	55 (19.3)	50 (18.1)	40 (14.2)	19 (13.6)	0.26563
南新宿相談室	74 (7.1)	16 (5.6)	20 (7.2)	27 (9.6)	8 (5.7)	0.26550
その他	14 (1.4)	3 (1.1)	4 (1.4)	4 (1.4)	3 (2.1)	0.85041

*総数:年齢が不明と45歳以上の9人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定,その他は χ^2 検定による。